

2015 年合格目標

TAC 行政書士講座

受験生応援イベント 第1弾

H26 年度本試験合格判定に見る H27 年度本試験対策法

《セミナーの内容》

1. H26年度・本試験合格判定について

2. H27年度・本試験対策法

《初学者向け学習戦略》

《受験経験者向け学習戦略》

《効果的な問題演習法》

1. H26年度・本試験合格判定について

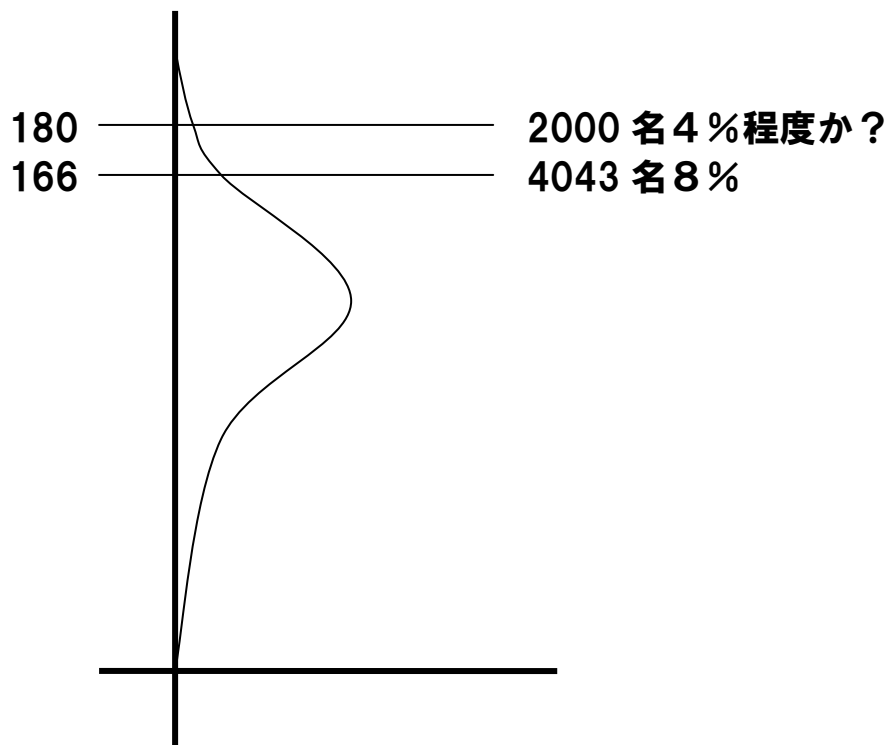
《平成 26 年度・行政書士試験》

試験全体 1 6 6 点以上（補正的措置）

法令科目 1 1 0 点以上（補正的措置）

一般知識 2 4 点以上（基準据置き）

（得点分布イメージ）



（平成 26 年度・本試験結果・推測）

① 法令択一が難しかった。（データリサーチ比較）

（H26 年度本試験・法令択一）

		難 0～50	普通 50～70	易 70～100
基礎法学	2		1. 2	
憲法	5	4. 5	3. 7	6
行政法	19	9.15.21.26	10. 11. 13. 17. 20. 22. 24. 25	8. 12. 14. 16. 18. 19. 23
民法	9	27.30.31.32.33	28. 29. 35	34
商法	5	36.37.38.39.40		
合計	40	16 問	15 問	9 問

（H25 年度本試験・法令択一）

		難 0～50	普通 50～70	易 70～100
基礎法学	2	2		1
憲法	5	5. 7	3. 6	4
行政法	19	21. 22	8. 9. 14. 16. 17. 18. 23 24. 25. 26	10. 11. 12. 13. 15. 19. 20
民法	9	32	27. 28. 29. 31. 34	30.33.35
商法	5	37. 38. 40	36. 39	
合計	40	9 問	19 問	12 問

② 一般知識は例年通り（一般知識の基準点は維持）



2 4 点を維持しても、記述式採点答案数は例年通り（推測）。
一般知識の基準点は引き下げる必要はなかった。

③ 記述式も標準的な問題であり、比較的得点しやすい問題。



一問一答的⇒キーワードの有無で 0 か 100 か。得点調整難

- 問題 44 公の施設、議会により条例の形式、指定管理者
- 問題 45 詐害行為取消権、価格賠償
- 問題 46 損害賠償

⇒ 得点調整が難しい。

(1) 考察1・相対化現象

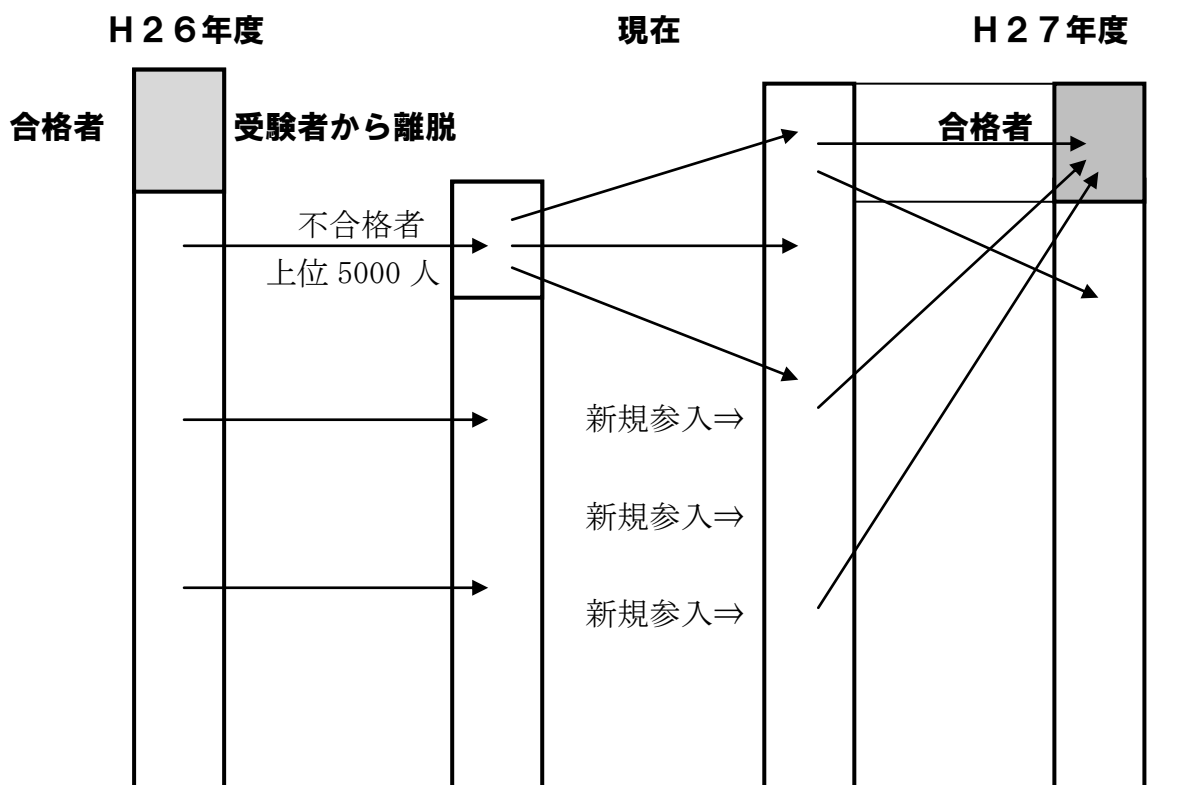
- ⇒ センターが想定する合格人数に達すれば、合格できる可能性。
近時の合格者数からすれば、4000名～5000名だと考えられる。
トップ集団に入ればよいということになる。
自分が受験者の中で上位にいるかどうかを常に確認する。
- ⇒ 仮に基準点180点を維持するなら、**H27は大幅に易化する可能性。**4000名～5000名合格者を出すべく作成したH26年本試験で、大幅減。ということは、**意識的に問題を易しくする可能性が高い。**
特に、民法、商法は易化が予想されます。

(2) 考察2・受験経験者は現在はトップ集団にいる！

- ⇒ 合格者が離脱し、あなたはいま受験者の先頭を走っている。
この実力を維持・向上させることで、無理なく合格できる。

(3) 考察3・新規参入者はより効率的な学習が求められる！

- ⇒ 上位集団に食い込まなければならない。
上位集団より効率的に学習をすすめる必要性がある。



2. 平成27年度本試験対策法

⇒ **基本（過去問知識）を修得し、アウトプットを繰り返す！**

受験者の中での相対的な位置を常に意識する！

《初学者向け学習戦略》

鉄則）時間の管理と INPUT・OUTPUT をこまめ繰り返すこと！

難しい問題や、他資格の問題などに手を広げない。

カギ）インプット時間をどうやって押さえるか。

① 時間の管理

・ 1 週間で勉強に割くことができる時間は、週_____時間。

3月1日（日）～	残り36週
4月5日（日）～	残り31週
5月3日（日）～	残り27週
6月7日（日）～	残り22週
7月5日（日）～	残り18週
8月2日（日）～	残り14週
9月6日（日）～	残り 9週
10月4日（日）～	残り 5週
11月8日（日）	行政書士本試験

② 時間配分

【法令科目】（81.3% 244／300） 残り時間×約 0.82＝法令の残り時間

- ① 基礎法（ 2. 6 % 8点）残り時間× 2.6%＝基礎法学の残り時間
- ② 憲 法（ 9. 3 % 28点）残り時間× 9.3%＝ 憲 法の残り時間
- ③ 行政法（37. 3 % 112点）残り時間×37.3%＝ 行政法の残り時間
- ④ 民 法（23. 3 % 76点）残り時間×25.3%＝ 民 法の残り時間
- ⑤ 商 法（ 6. 6 % 20点）残り時間× 6.6%＝ 商 法の残り時間

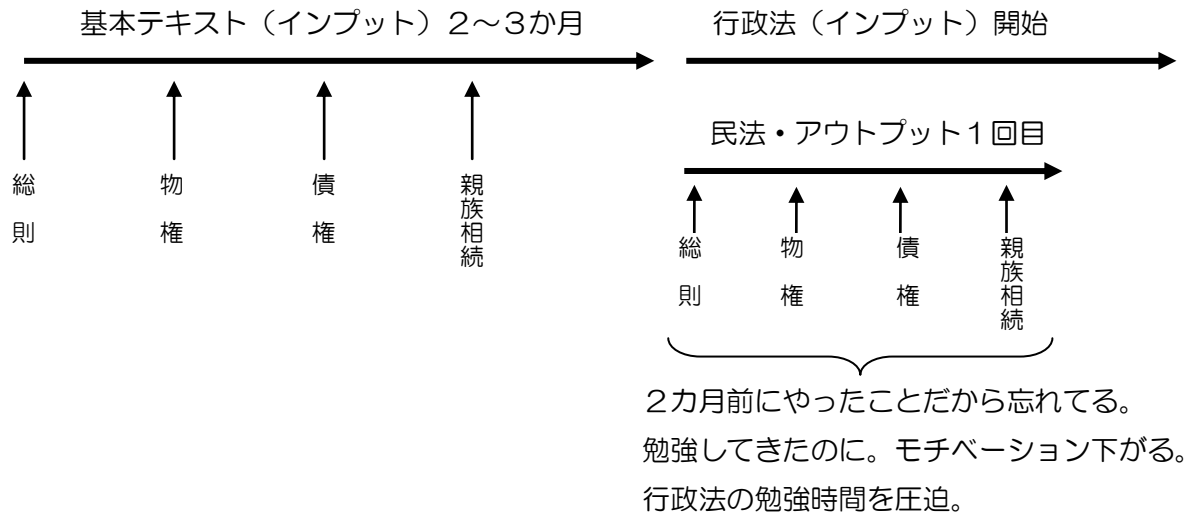
【一般知識等】（18.6% 56 点） 残り時間×約 0.18＝一般知識の残り時間

- ① 政経社（ 9. 3 % 28点）残り時間× 9.3%＝ 政経社の残り時間
- ② 情報等（ 5. 3 % 16点）残り時間× 5.3%＝ 情報等の残り時間
- ③ 文 章（ 4. 0 % 12点）残り時間× 4.0%＝文章理解の残り時間

③ インプット、アウトプットを同時並行で繰り返す

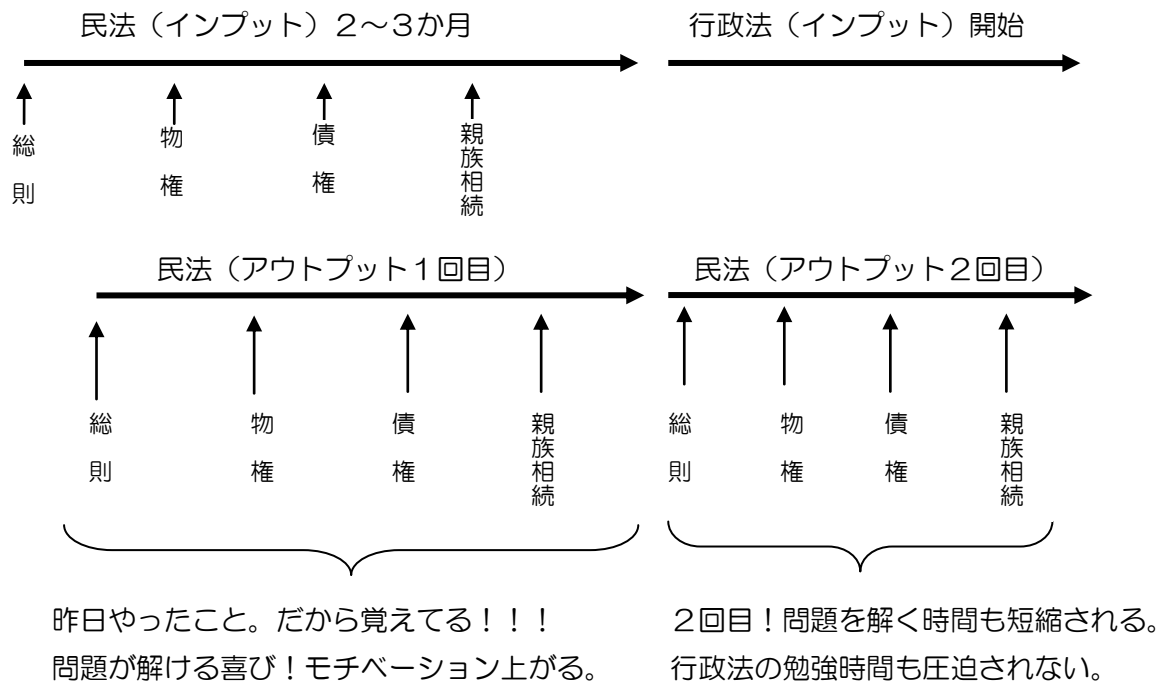
《効率的でないパターン》

インプットを全部やってからアウトプット



《効率的なパターン》

インプット・アウトプットを同時並行で行う。



《受験経験者向け学習戦略》

鉄則）INPUT 時間を極限まで絞り込む！やるべきことの明確化！
基本に忠実に。知識がないのではなく正確性が不十分。
カギ）アウトプット教材をどのように取捨選択し、演習するか。

① 過去問の重要性

アウトプット教材で基本となるのが、過去問です。これが、行政書士試験における、基本知識となります。まずは、徹底的な過去問マスターです。

② 問題演習の重要性

合格できなかった人に足りないものは問題演習です。

アウトプットは時間がかかりますので、問題をたくさん解くためには、インプットに割く時間を極力減らす必要があります。

インプット 1～2 に対して、アウトプット 8～9 の割合で時間を使います。

「問題を解く前にテキストで確認してから。」と言っていると、いつまでたってもテキストから離れられず、問題演習ができません。問題を解きながら、間違えたところだけをテキストに戻って復習するようにしましょう。そうすることで、分かっていないところだけを効率的にテキストで確認することができますし、より多くの時間を問題演習に割くことができます。

③ 前年のアドバンテージをフルに生かす！

初学者との違いは、既に完成しているところがあるということです。

その部分は時間を割く必要がありません。

つまり、インプットを改めてする必要はありませんし、いきなり問題演習に突入できるということです。

どの科目をどのぐらいやるのかの戦略は必要です。

到達点として、択一・多肢のみで 150 点～160 点を目指す。



それだけの得点を作るためには伸びしろがあるところをやる必要があります。

伸びしろがないところをやっても得点は伸びません。

そのための学習方法を考えていくことになります。

ここにもっていくために、どこをやるのが負担が少なく効率的か？

③ 星獲り表を作成 → どこで得点を作るか？

得点表							
択一・法令							
120点獲得を目指す							
	問数	目標(素点)	最低目標(素点)	あなた	所要時間	合計	あなた
基礎	2問(8点)	1問(4点)	1問(4点)		1問2分	4分	
憲法	5問(20点)	3問(12点)	2問(8点)		1問3分	15分	
民法	9問(36点)	6問(24点)	5問(20点)		1問4分	36分	
総則	2問(8点)	2問(8点)	1問(4点)				
物権	2問(8点)	1問(4点)	1問(4点)				
債権	4問(16点)	2問(8点)	2問(8点)				
親族相続	1問(4点)	1問(4点)	1問(4点)				
行政法	19問(76点)	17問(68点)	15問(60点)		1問2分	40分	
法理論	6問(24点)	5問(20点)	4問(16点)				
行手法	3問(12点)	3問(12点)	3問(12点)				
行審法	2問(8点)	2問(8点)	2問(8点)				
行訴法	3問(12点)	3問(12点)	3問(12点)				
国賠法	2問(8点)	2問(8点)	2問(8点)				
地自法	3問(12点)	2問(8点)	1問(4点)				
商法	5問(20点)	3問(12点)	2問(8点)		1問2分	10分	
	40問(160点)	30問(120点)	25問(100点)			105分	
択一・一般							
40点獲得を目指す							
	問数	目標(素点)	最低目標(素点)	あなた	所要時間	合計	あなた
政治	2問(8点)	1問(4点)	1問(4点)		1問2分	4分	
経済	2問(8点)	1問(4点)	0問(0点)		1問2分	4分	
社会	3問(12点)	2問(8点)	0問(0点)		1問2分	4分	
情報関連	4問(16点)	4問(16点)	3問(12点)		1問2分	4分	
文章	3問(12点)	2問(8点)	2問(8点)		1問6分	18分	
	14問(56点)	10問(40点)	6問(24点)			40分	
多肢選択							
20点獲得を目指す							
	問数	目標素点	最低目標素点	あなた	所要時間	合計	あなた
	12問(24点)	10問(20点)	8問(16点)		1問3分	10分	
記述式							
30～40点獲得を目指す							
	得点目安			あなた	所要時間	合計	あなた
	択一＋多肢で180点なら 0点				1問8～10分		
	択一＋多肢で140点なら40点					25分	

《効果的な問題演習法》

本試験までにやる問題演習は、その問題に正解するためではなく、あいまいな知識を発見して、その知識の穴をピンポイントで埋めるためにやります。

① 曖昧な知識をどれだけ増やしても本試験では使えない。

本試験では、各選択肢の正確な正誤判断が求められますので、曖昧な知識では正誤判断ができません。なんとなく「○」にしたり「×」にしたり。結局、各選択肢を正誤判断できる確率は50%です。この確率は知識がない場合と同じです。問題を解いて、明確に「正しい!」「誤り!」と判断できる知識が、本試験でも使える正確な知識ということになります。

曖昧な知識をどれだけ増やしても本試験では使えない。

② 正誤判断を正確にできる知識を獲得するための問題演習法

問題を解いてみて、正誤判断の根拠となる条文や判例を説明できる肢には○や×をつけますが、正誤判断できなかった肢、正誤判断に時間がかかった肢には△をつけます。

問題1 誤っているものを選べ。

- | | |
|----------------------------|-----|
| 1. → 見たことはあるけど、正誤判断がつかない | → △ |
| 2. → なんとなく正しいと思うけど根拠がわからない | → △ |
| 3. → 1分間考えて誤りと判断 | → △ |
| 4. → 正しいと判断。根拠判例も言える | → ○ |
| 5. → 誤りと判断。根拠条文も言える | → × |

この問題であなたが正確な知識として持っているのは2肢だけこの問題の40%の知識しかものにしていません。

肢4、肢5は完全に分かっていたので、軽く確認すればオーケー。

肢1、肢2、は答え合わせのときに、根拠条文、判例を見直し。条文のどこが誤りに変更されているのか、正しいあるいは誤りと判断するポイントはどこかをチェック。

肢3は、なぜ正誤判断に時間がかかってしまったのかを自己分析。知識が曖昧なところを条文・判例でチェックします。

問題には正解したとしても、△の選択肢は知識が曖昧ですから、その肢に関わる条文知識、判例知識は一つ一つ丁寧に確認して、記憶させます。それを何度も何度も繰り返し行うことで、△の数は減っていき、すべて○×を正確につけることができる知識、本試験でも使える知識が増えていくわけです。



行政書士本試験までに行う問題演習の意義は、問題自体に正解することではなく、自分の曖昧な知識を発見し、その知識の正確性をあげることです。

「△の知識を、確実に○×と判断できる知識にすること」

到達点は、全試験問題のうち5割を確実に○×判断できるようになることです。

以 上